

(第3回) (仮称) 魚津観光まちづくり会社設立準備委員会 議事録

次第

日 時：令和7年3月28日（金）14：00～14：45

会 場：魚津市役所 2階 第1会議室

参加者：(仮称) 魚津観光まちづくり会社設立準備委員 19名

欠 席：公益社団法人 全日本不動産協会富山県本部 山本 章士 氏

代理出席：新川森林組合 代表理事組合長 辻 泰久 氏

⇒ 代表理事専務 末上 浩二 氏

魚津市施設管理公社 理事長 堀 昭禎 氏

⇒ 事務局長 南塚 智樹 氏

魚津タクシー協会 会長 佐々木 祐司 氏

⇒ 武隈 一彦 氏

事務局 12名

内 容：

司会 魚津市産業建設部商工観光課課長 政二 弘明

1.開 会

2.あいさつ

3.報告事項

- (1) これまでの経緯と取組み
- (2) 事業統括マネージャーの説明
- (3) 地域おこし協力隊の説明
- (4) 出資金の説明
- (5) 収支計画の説明
- (6) 今後のスケジュール

4. 意見、質疑

5. 閉 会

議事

1 開会

- ・開会。
- ・配布資料の確認。

2 あいさつ

- ・魚津市副市長 石黒 雄一よりあいさつ。

3 報告事項

(1) これまでの経緯と取組み（資料1）

- ・事務局より、資料1に基づいて説明。
定款については、参考資料2を参照のこと。

(2) 事業統括マネージャーの説明

- ・事務局より、資料2に基づいて説明。
- ・事業統括マネージャーの雇用体系は魚津市一般職の任期付き職員であり、一旦本年4月から6月末までは「魚津観光まちづくり株式会社設立準備室」の配属として勤務する。同年7月からは「魚津観光まちづくり株式会社」事業統括マネージャーとなる。辞令交付式は4月1日の15時を予定。

(3) 地域おこし協力隊の説明

- ・事務局より、資料3に基づいて説明。
- ・主たる活動は観光に関する戦略的な情報発信、観光案内所での接客、体験コンテンツの造成・磨き上げ等。

(4) 出資金の説明

- ・事務局より、資料4に基づいて説明。
- ・申込のあった株数は254株だが、今後10株程度増加する見込み。発起人の持ち株数は定款参照のこと。なお、株式発行は今後実施する。

(5) 収支計画の説明

- ・事務局より、資料5に基づいて説明。
- ・主たる業務は委託業務であり、観光協会から引継ぐ事業や自主事業として約241万円の収入見込み。

(6) 今後のスケジュール

- ・事務局より、資料 6 に基づいて説明。
- ・6 月半ばに創立総会を実施し、同日に会社概要説明会を予定。

4. 意見、質疑

委員 : 定款について質問がある。定款を拝見したところ 33 条に抜けがあるようだが、これには意図があるのだろうか？場所柄から察するに取締役の責任や義務についての記載だと思うが、意図的な削除だろうか？それとも単なる条文のケアレスミスだろうか？

事務局 : これはケアレスミス。申し訳ない。ただ、この内容で定款の認証は得たものと認識している。創立総会の際に定款を変更する予定のため、その際にしっかりと修正し、改めて提示させていただく。

委員 : ここまでの準備も大変だったと思う。今回事業統括マネージャーの関係についても説明を受けたので質問したい。一次選考が書類選考だったということで、そこに何人が参加したのかは分からないが、書類選考の次が最終選考で、当初想定していたスキル・知識を有する人材を獲得できたのか？

会長 : その通り。第一次選考の書類選考に応募があったのは 4 名だった。どの応募者も立派な方で書類選考を合格したが、うち 2 名が事情により辞退した。最終選考したのは残った 2 名だが、いずれの方も事業統括マネージャーとしての資質は充分にあり、僅差で 1 名に決定した。

委員 : 力強い言葉に、何らの問題もないと理解した。事業統括マネージャーの果たす役割が大きいということはこの委員会でも共通認識ができていると思うので、確認した。本年 7 月前までは魚津市職員として在籍し、そこから新会社勤務になるということだが、それまでは市役所内に机を置くことになるのか？

事務局 : 本年 4 月 1 日より「魚津観光まちづくり株式会社設立準備室」を商工観光課内に設置し、その執務室を 3 階第 8 会議室に設置する。魚津観光まちづくり株式会社の専務取締役になる方と事業統括マネージャー、市の会計年度任用職員を 2 名、商工観光課と兼務で従事する職員が在籍する。

委員 : 執務のための通信環境等の整備はこれから突貫で行うのか？

事務局 : 環境整備は既に完了している。

委員 : 最初の頃を思い返すと、ここまでしっかりと計画したことを素晴らしいと思う。事業統括マネージャーが肝心であるという議論はここまで続いてきたと思うが、しっかりとした方をマネージャーとして採用したことに安堵した。一方、2 点質問がある。1 点目は、魚津市内にいらっしゃる方で、地域に所縁・人脈のある方なのか？ということ。2 点目

は、もしそうでない場合、事業統括マネージャーにつく事務員の役割は企業の運営が主であると理解している。そうなると、組織図の「配置および支援体制」を見ると地域の方々、事業者との接点は「支援体制」という部分が候補になると考える。地域に関係のない方であれば問題ないと思うが、商工観光課のメンバーは市役所の人間であり、地域おこし協力隊は外部の人間。地域活性化起業人も恐らく外部。残るは商工会議所のメンバーになるが、この人員について選抜は完了しているのか？

会長 : まず1つ目の質問については、事業統括マネージャーは市外の方。だが、キャリアとしてはまちづくり分野に携わっており、非常に精通している方。こちらとしては4月から準備室を作り、会社設立に向けて地域関係者とそれらについて膝を突合せ様々なことを共有し、あるいは新事業の設置について検討していただきたいと思っている。1から作り上げていくため、人を配置して一つの組織になれるよう、4月から動かしていきたいと考えている。

委員 : まさに最初の3か月で、外部のプロの人材と地域の方々のまちづくり会社を運営するチームを作っていくのだと理解した。

会長 : やっとここまで色々作り上げてきたが、1から動かしていくので何が起きるのかわからない。その中を必死に動かしていかなければならないと認識している。気を付けるべき点や協働すべきことなどのお話があれば、どんどんいただきたいと思う。

会長 : こういった分野に詳しい委員はどうか？

委員 : 何度も話のあった通り、苦勞してこの形になったのかと思う。これまで大変だったと思うし、これからも大変であることは間違いないと思う。やはり、原点に戻って動かしていけないといけないと思っている。何のために設立し、どこに向かっていくのかということブレないようにして、どうやって実効性を担保していくのかが重要だと思う。人的なもの、資金は相当必要になる。掛け声だけで人は動かないため、資金を確保し、しっかりと実効性を担保していくことが重要と思っている。

会長 : 仰る通り、1年目は市がテコ入れして動かしていくが、企業として動けるようになれば、自ら工夫して事業を企画し、稼いでいってもらおう。最初の1年は、その準備期間となると思っている。一つの組織として動けるよう市としてもサポートするし、地域の方々にもご協力をお願いしたい。

会長 : 他に何か意見はあるか？あるいは、皆様の企業・団体でできることなどご提案はあるか？

委員 : 会議に出て来ている方には、それぞれ思いがあると思う。順番に意見をお伺いしてはいかがか？

会長 : 先ほどこういった分野に明るい委員を指名したが、ぜひ他の方からも意見を伺いたいと

思っていた。

委員 : いよいよここまで来たかという思い。定款について気になるところがある。例えば、太陽光パネルを設置した建築物を新たに取得した際、余剰の電力を電力会社に販売できる制度がある。後程修正する際でいいが、定款にこの売電について記載してはどうか。これからも定款に記載のない事項というものは出てくると思うが、行政の関わる企業である以上、ご意見・ご指摘を受ける可能性を考慮して留意した方がよいのではないか。いよいよ事業がスタートするということで、課題や要望も多くでてくることと思う。内部でしっかりと煮詰め、株式会社になったことで広がった自由度を活かし、幅広いことに挑戦して行ってほしい。

委員 : 2点言いたいことがある。まず1点、出資金を募る際に当然ながら大丈夫かと思いながら進めてきた。企業では賛成論・慎重論と意見が分かれたが、総じて協力的な評価を得ることができ、当初より多くの出資金を得ることができた。感謝申し上げます。2点目は、いよいよ創立して事業開始ということになった。多くの方から事業アイデアを募り、現在のプランが生まれたと思う。事業の規模に大小はあるが、失敗を恐れず、ぜひトライ&エラーで積極的に多くの事業を進めて行ってほしい。

委員 : これまでの苦勞に感謝申し上げます。定款を拝見しても、多岐に渡る事業に取り組むことが窺える。掲げた事業にも大小さまざまなものがあるため、まちづくり会社として最もやるべきことを重視して、その上で他の事業にも取り組んでいていただきたい。我々もミラージュランドを所有しており、主に観光分野になると思うが、一緒に頑張っていきたいと思っている。

委員 : いよいよ設立されるということで、収益を上げるために様々な施策をしなければならぬと思う。運行会社として協力できること、提案できることなどぜひ連携していきたい。

委員 : これまで長い時間をかけてここまでたどり着いたと認識している。一つのゴールでありながら、ここからがスタートであるとも認識している。よりよいものになるよう、一人一人取り組んで行ってほしい。

委員 : 魚津駅観光案内所の運営について、スタッフの多くが後期高齢者となり後継者に悩んでいる。事業統括マネージャー、地域おこし協力隊の方にお会いする機会があり、後を任

せられると安心している。残り僅かではあるが、頑張っていく。

委員 : 市役所も新しく移転し、魚津商工会議所女性会の会員を見ても東側の地域に偏っている。できれば、市全体をもってまちづくり企業の取組みが地域格差のないように波及していく取組をお願いしたい。

委員 : 出資について、何かしらの連絡が来るものと思っていた。出資したいと思いはもっている。

委員 : 株式会社ということで、色々と動きやすい立ち位置になると思う。外部団体、企業とのコラボレーションもしやすいので、それを活かした幅広い活動に期待する。

委員 : 会議所青年部として、若い力とアイデアを活かして協力していきたいと思う。本年度で自身は会長を辞してしまうが、新会長を中心にぜひ協力させてほしい。

委員 : 新企業を立ち上げるということで机など備品を買うこともあると思うが、市内の余っているものをお譲りしていただいて活用する、ということもできると思う。自社でも 100L ほどの冷凍庫が余っているので、将来販売等で必要ならぜひ声をかけてほしい。無償で提供させていただく。

委員 : 収益計画を見ると、自主事業収益で倍々と増えていく様子。これを実現させようとする、相当の優良企業でなければ困難だが、目標は高くあるべきと思っている。もっと出資したい、という方が今後も出てくればいい。その逆にならないよう、応援できるところは応援しながら、全国の範になれるよう取り組んでいってほしい。

会長 : 企業、団体など各方面と手を取り合って進めていかなければいけないと思っている。

委員 : ワーキンググループなどにも参加し、これからまちづくり会社が動いていくことを感じている。周囲から観光まちづくり株式会社ができて地域が変わったと認識され、うらやましいと思われることを期待する。

委員 : 魚津市では 13 地区の地域振興会があり、それぞれが海、市街地、山手の各地域で特色を活かしたプロモーションを行っている。このまちづくり会社も各地域と意見交換・連携しながら実績を挙げていってほしいと思っている。質問があるが、事務所はどこに置くのだろうか？また、当面は赤字のためまちづくり会社が自立できるまで魚津市の補助

金で予算を得るものと思うが、累積的な赤字が解消される目途が立った際に補助金も無くすことを検討しているのか？

事務局 : 事務所については駅周辺を望ましいと思いつつ、いくつか候補を挙げている。新たに4月に魚津観光まちづくり株式会社設立準備室が設置されるため、その部署で検討を進めていく予定。補助金については自ら稼ぎ自立・補助金を縮小していくことも勿論重要だが、地域が潤うことが先決と思っている。その上で収益を得られるようにすることはかなり高い目標だが、その実現を目指し努力していく。

5 閉会（挨拶）

・事務局より挨拶